

令和6年度 第3回学校運営協議会 記録

1 期日 令和7年1月28日(火)午前 10 時から 11 時 30 分まで

2 会場 静岡県立浜松視覚特別支援学校 会議室

3 参加者

○静岡大学 学術院情報学領域講師 A 氏

○松川電気株式会社 代表取締役 B 氏

○浜松市視覚障害者福祉協会会長 C 氏

○NPO 法人六星 ウイズ代表理事 D 氏

○視能訓練士 E 氏

○葵西自治会長 F 氏

○PTA会長 G 氏

○本校教職員校長、副校長、事務長、幼小学部主事、中学部主事、高等部主事、専攻科主任、寮務主任、教務主任

4 内容 ・開会

・全体会

(1) 令和6年度学校経営の報告、学校関係者評価委員会

令和7年度学校経営計画素案

(2)学校コンプライアンス委員会

(3)今年度のトピックス報告

・閉会

全体会

(1) 令和6年度学校経営の報告、学校関係者評価委員会、令和7年度学校経営計画素案

○令和6年度学校評価(児童生徒、保護者、教職員評価)

資料を参考に副校長、各部主事から成果と課題について説明

・学校運営協議会委員からの質問、意見、感想等

教育活動の効果的発信方法の確立について

(C 氏):ホームページとポットキャストの説明があったが、ホームページ以外でもポットキャストを使い拡大して発信していくと捉えればいいか。

(専攻科主任)

今年度9月までは、ホームページ上で活動の様子を『声のたより』という形で見えづらさのある方たちに音声で発信していた。しかしホームページの掲載方法が変わったため不都合が生じた。その対策を考えていたが、iPhone のポットキャストを使えば、ボイスオーバーで聞けるということが分かった。

(D 氏):ウイズを利用している一般の利用者さんは iPhone 利用者は少ない。パソコンでも利用できるツールも希望したい。

また、ホームページをどのような内容で発信していくか、ターゲットについて話があったが、ウイズ利用者の中にも卒業生が多い。卒業生達は母校でどんな取り組みをしているか、関心を持って見ている。そのことも知っておいてほしい。

(A 氏): 自分も大学で広報を担当している。大学の場合 HP ユーザーは主に受験生。HP 作りの対象を受験生に絞ることができる。しかし、浜松視覚特別支援学校はユーザーが多様であるので、外部への発信のための HP 作りは難しいかと思う。また、本校では学生にチラシ作りや動画作りなど広報の仕事を手伝ってもらっている。これらは外部に発信し効果が実感できるものなので、生徒はやる気を持って一生懸命に取り組んでくれる。生徒目線のいいものができる。生徒に作ってもらうのもいいのではないか。

安全で豊かな学校生活について

(F 氏): 食や食材、防災の話があった。アレルギーがある人は自分のアレルギーについて知っておくとよい。防災被災者になった時、地域からどんな物が必要か発信する。その時は、一緒に活動することになるかと思う。その際には食材に関して、アレルギーがあることを伝えていくことは大変重要だと思う。

交流及び共同学習の充実と幼児児童生徒が地域で豊かに生活するための基盤作りについて

(E 氏): 共同学習をし、その目的や内容がお互いにマッチすることができると、効果的な交流になり、記憶に残って思い出になる。友達レベルまで行く交流ができるとよい。お互いの学校の教育活動の中で目的や内容が一致するよう打ち合わせの段階で確認できるといい。

(B 氏): 専攻科の校外実習に当社の施設を利用してもらい地域の人たちに向け実習(施術)を行ってもらっている。皆さんに大変喜んでもらっている。生徒さんたちは学校の授業なので、実習が終了したらすぐに帰ってしまうが、地域の人たちと 10 分でもいいから話せる時間があるとよいと思う。勉強にもなるかと思う。

(G 氏): 小学校から本校に通っている。地元の中学校とは居住地交流を毎年行っている。交流に行くと、名前を呼んで話しかけてもらってはいるが、友達になるまでにはいたらない。しかし地域の人たちに知ってはもらっている。本人にとっても、居住地交流は本校以外の社会を知ることができ、良い刺激になっている。本人も社会にもっと視野を広げていきたいという思いを持っている。

○令和7年度学校経営計画素案について

資料を参考に校長から説明

・学校運営協議会委員からの質問、意見、感想等

成長を支える支援体制について

(E 氏): 教育支援相談課が外部で困り感がある方たちへのサポートをする立場になるかと思う。サポートしたいのに要請がないと訪問することができないということだが、困っていることが分からないのかもしれない。基礎知識の啓発が必要かと思う。例えば、「こういうことは大丈夫ですか?」と聞いていくのはどうか。

(F 氏): 視覚で行った、音楽鑑賞会に葵西地区住民への招待ありがたかった。参加された方は大変喜んでいた。視覚支援学校の児童生徒さんの歩行訓練の様子をよく見るが、その際声を掛けたいが、訓練中なので声をかけていいのか迷う。できることは協力したいと思っているが、どんなものなのか?

(D 氏): 是非、声をかけていただけるとありがたい。視覚障害の方は一人で完璧に歩くのは難しい。声をかけていただいて、周りからサポートしてもらえることを知ることだけでも、励みになる。

(専攻科主任)

: 自分の歩行訓練の時の自分としての反省ですが。こちらの学校に来て、学校の周りの環境把握のために、学校周辺を探っているとき、地元の中学生在が 4 人ぐらいで、自分が白杖を持って一人で歩いているのを心配してくれ、何も言わないで見守ってくれた。自分は段差を確かめたり、ランドマークを見つけたりしたくて、白杖で塀や電柱をたたいたりした。その行動を見て、見守ってくれた中学生が「そこは危ない。右右」など心配して声をかけてくれた。そんなことが何回かあった。大変心配してくれていることが申し訳なく、自分の目的を言わないままだった。今思えば、そのことをしっかり伝えることも大切だと思った。もちろん環境把握が目的でない時には、教えてもらうのは大変ありがたい。

安心安全な学校生活について

(E 氏): 中途で見えづらくなった生徒さんたちのストレスが心配。主に対象は専攻科の生徒さんだと思う。

(副校長): ひまわりタイムという時間を設定している。心理士も年 3 回来ていただいている。

(E 氏): ウイズ鍛冶町の利用者さんも、ちょっとした不安を持っている。解決はしないかもしれないが、話せる場所、聞いてもらえるだけでも楽になると聞いている。専攻科の生徒さんも話を聞いてもらう、ルートはあるかと思うが、生活も抱え、勉強もしなくてはいけない。ストレスはあると思う。今は大丈夫でも、見えづらさが進む場合もある。その時今後のことが不安になるかもしれない。話せる場所やルートを知っておくことは大事かと思う。ウイズ鍛冶町のことや、ラインで仲間を増やすことや、疾患別の団体もあることを知っておくことも大切かと思う。ぜひ紹介してほしい。

(2) 学校コンプライアンス委員会

- ・令和6年度不祥事根絶に向けた取り組み成果
資料を参考に副校長から説明

(3) 今年度のトピックス報告

- ・令和6年度の表彰について資料を基に副校長から説明
- ・各学部、科、寄宿舎の様子を学部主事、寮務主任から説明